

## 「英語を学ぶことについて」

かどやなつ  
角谷奈津

### 1. [ 動機 ]

日本にいたときから、学校教育で英語を学んできた。

英語には興味があった。そして大学への進学も英語関係、つまり英文学を本人としては少なくとも希望していたが、やむなく家庭の事情で英語だけではなく言語とは直接関係のない別の専門分野へ進学することになった。勉学を修了したあともやはり英語へのこだわりが残っていて、ついにはイギリスへの語学留学を決心する。

これが、私の人生で長期滞在を目的としたヨーロッパ進出への第一歩になるわけである。その最初として自分で選んだのが、「それならアメリカへ行ってらっしゃい」という周りの熱心なる勧めにも応ぜず、長年の活動を通じたガールスカウトの発祥地でもある英国の南西地域を言語学校訪問と長期滞在を目的で選んだ。

英国へは一年以上滞在したことになる。世界中からいろんな人が集まった英語の教室へは定期的に通ったにもかかわらず、学んだ英語をすぐに自分の人生に活かすところまでにはいかなかった。そのときの自分のキャリアに対する考え方が甘かったのか、英語を学んだあとの人生設計が具体的な形に作られていなかったのか、とにかくヨーロッパ諸国を旅して回ることが楽しみとなった。したがって英国滞在一年間みっちり英語の教室へ通ったわけではなかった。なんだ、中途半端だったんだ。

それからフランスへヶ月、そしてそのままドイツへ来て 20 年以上が経ってしまった。そんな私でも、いつのまにかキャリアウーマンたる類の日本女性になってしまった。現在では、仕事上も英語のスキルが問われるようになってきた。もともと外国語を学ぶ、ということが好きだ。その言葉が使われる土地でその土地の人と直接対話してみたいと思う気持ちが語学を学びたいという気持ちにさせる。英語、ドイツ語のほかにも、フランス語、イタリア語、スペイン語、中国語を学びはじめた経過は、やはり旅や文化遺産的事項に興味があるからだろう。フランス語と中国語は、短期間ではあったが、語学学校へも通った。

再び英語に戻るが、今私は週一回 90 分の英語グループレッスンを受けている。インターネット上で Web ベースのビジネス教育も受けている。また通勤電車の中で「ハリー・ポッター」のオリジナル版を読み始めて、今までにないスピードで三冊は読み終えた、という事実がある。これは、私にとっては充実した英語の学習のように思えた。一時期は友達などとの話題がその話の内容にもなった。その上それが映画化されたので、それもまたオリジナル版で友人の米国女性とも見に行った。自分が描いていたイメージによく似ていて、楽しかった。

このように、英語は私にとって大学生活からは外れてしまったが、生涯教育になってしまっている。（仮説）

### 2. [ 対話・ディスカッションを終えて ]

最初にこのテーマをぶつけた相手は、「ハリー・ポッター」をドイツ語で読み、私が英語で読んだ時の気持ちに共感できると言ってくれた。言語は問わず、その言語を使って日常

の生活を営むことと、同じ言語でも別の世界を想像展開してくれる材料に使われるものは、それぞれ異なった味で認識される、というニュアンスが感じられた。

それから、そのテーマについて男性1人、女性7人から成るグループでディスカッションを行った。それで他者からどういうコメントが得られたかというと、

- 現時点では、英語はすでに私の第二言語ではなくなっている。実際それを使って仕事をしているのだから、それを超えたものになっている。
- 生涯教育という言葉は、仕事に直接関係なく、趣味とか自分が楽しめる対象になることを学ぶことだ。
- 「ハリー・ポッター」の話をしているときの私が生き生きしているので、いっそう「ハリー・ポッターが教えてくれたこと」というテーマタイトルにしてはどうか。

### 3. [ 結論 ]

自分で1つのテーマを選び、それについて自分とのかかわりを追求し、それが自分にとってどういうことに定義付けられるかを仮説として立てた。このへんは、ワークショップの内容説明と宿題までの時間があまりにも短すぎて、頭脳が柔軟には働かない年齢層には、かなりのハードワークだと思うと、一人で愚痴をこぼしながら宿題を書いた。そしてそれを「叩き台」にして他者と交流しているうちに、私が宿題を書いているときに期待をしていたような話には展開せず、私以外にはハリー・ポッターを読んだ人がそのグループにいなかったという事実も重なり、「そんなにおもしろいですか」という質問に対し、「是非お勧めします」という話にもなった。また「生涯教育」という言葉で言おうとしていた私の意図とグループの「生涯教育」という言葉で受ける感覚が少し違うな、ということも感じた。

まず、私が期待していた話とは。

- 言語を学ぶときは、基礎知識さえきちんと習っておけば、自分が興味のあるものなら何でもが教材となりえるのではないか。
- 場面設定して考えなくても、普段使われている口語調の文章などを読んでいても、それなりの言語世界が生まれてきて、なんとなく話しやすい環境を作ってくれる。

などであり、このところは日本語を母語とする人間と第二言語として学習する人間では、他者との対話を目的とした宿題などで無意識に働く期待感のようなものは、違うのかな？と試してみたりもした。

とにかく、結論としては結果レポートをグループで検討する時間は私の場合なかったわけになるが、私なりにまとめてみると、次のようになる。

#### [ 結果総括論 ]

英語を学ぶことは、最近「ハリー・ポッター」を読んで体験したように、私の人生での楽しみを増してくれる1つの要因である。そしてそれがあからこそ、実社会で必要となるむずかしくて堅苦しい英語でも続けて学んでいこうかな、という気持ちにさせてくれる。言わば、良質のモーターで前に動く二本足の生き物である。